No.90　2026年（令和8年9月30日発行）

グラウンドワーク三島 ボランタリーニュース

発行　特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
〒411-0857　静岡県三島市芝本町6－2
TEL 055(983)0136　FAX 055(973)0022
URL http://www.gwmishima.jp/
E-mail：info@gwmishima.jp

グラウンドワークとは・・・・・・・
市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたも、ぜひ活動にご参加ください。
（文中でグラウンドワークをGWと表記することがあります。）

令和８年度・通常総会・講演会・交流会開催（三島商工会議所 TMO ホールにて）

６月 21 日、三島商工会議所ＴＭＯホールで、グラウンドワーク三島の令和８年度・通常総会・講演会・交流会が開催された。総会の議案は、第１号議案・令和７年度事業報告及び活動計算書承認の件、第２号議案・令和８年度事業計画及び活動予算書決定の件、第３号議案・評議員選任の件、第４号議案・役員選任の件、第５号議案・その他でいずれも承認された。令和８年度は、評議員・役員の改選の年で、任期は２年。下記のように承認された。


理事長
小松　幸子


副理事長
小野　徹


専務理事
渡辺　豊博


理事
緒明　春雄


理事
石岡　博実


理事
松下　重雄


理事
室伏　努


理事
中島　一彦


監事
遠藤　隆


監事
春名　薫


評議員
大田黒　敦雄


評議員
河合　孝彦


評議員
柴田　英雄


評議員
林　丈雄


評議員
李　東勲


評議員
門倉　京子


評議員
國原　優子


評議員
中江　章喜

本年度の事業実施方針は「次なるＧＷ三島の発展に向けての実績拡大と人材育成」。基調講演は「ＡＩ対話型・革新的書籍『ジャンボ・メッセージ』に込めた三島の過去と未来～グラウンドワーク三島による水辺のまちづくり・その極意とは～」（ＧＷ三島専務理事・元都留文科大学教授・農学博士　渡辺豊博）で、参加者による意見交換は「みんなで考える三島の『未来予想図』とは」だった。交流会も前向きな意見が多数語られ、例年どおり盛会だった。







「相葉ヒロミ・三島」3 時間スペシャル番組！テレビ朝日「相葉ヒロミのお困りですカー？」をサポーターと鑑賞

９月 24 日、19：00 からテレビ朝日の「相葉ヒロミのお困りですカー？」を、相葉さんとヒロミさんたちと作業したサポーターとともに鑑賞。本当に上手にまとめてあり感動した。撮影場所は、源兵衛川中流部の「水の苑緑地」。お２人とも、全身全霊で作業に集中し、元の湧水庭園の姿に再生・復元。

企画提案から諸般の調整、難題解決等苦労もあったが夢を現実できた。相葉さんとヒロミさん、多くの関係者やテレビ朝日の方々に深く感謝。

翌日も朝から掃除や水位調整などに出かけたが、全国各地から見学者が大勢来ていた。「ジャンボさん？」と声がかかり、市民による源兵衛川の維持管理の重要性や大変さ、喜びなど「現場人」として話させていただいた。今後も適切な維持管理を続けていく。ボランティア活動や水の苑緑地の清掃活動に協力していただける方は、グラウンドワーク三島の事務局に是非ご連絡を！ご寄付も大歓迎！







台湾の訪日メンバーを環境省と農林水産省に案内

８月 19 日に環境省、20 日に農林水産省に、台湾・社区大学全国促進会と淡江大学の訪日メンバーをご案内。それぞれで「名水百選」「疏水百選・世界かんがい施設遺産」などの取り組みについて説明を受け、今後、台湾において同様の取り組みを進める参考にする。

その後、ＧＷ三島で、台湾からのインターン生の修士論文審査を行い「中間支援組織のあり方」について、台湾側教授と議論。

翌日は、三島の水を活かしたまちづくりの現地調査、翌々日は、メンバーとの意見交換・質疑応答。

台湾との繋がりが、太く具体的になっていく。今後が楽しみだ。

境川・清住緑地にてGW三島の環境アドバイザーに活動報告と相談





7 月 17 日、境川・清住緑地で環境アドバイザーの滝道雄先生（鳥類）、加須屋真先生（トンボ）、関川文俊先生（魚類、昆虫）に活動報告をした。松毛川の第２期工事による留意点、源兵衛川のホタル減少の原因究明、境川の自然環境調査の依頼など相談事は多岐にわたった。

ＧW三島は現場主義だが、環境改善作業については常に環境アドバイザーに相談し、科学的、生態学的根拠に基づく環境改善、再生活動を行っている。

源兵衛川に「源兵衛川探検マップ」を設置





８月５日、源兵衛川の上流と三石神社の２カ所に「源兵衛川探検マップ」を設置。設置場所の地盤が固く、狭く、掘削するのが困難だったが、看板屋さんのおかげで所定の位置に完璧に設置できた。

設置作業中、来訪者からＧW三島・源兵衛川のデザインのポイントなど、いろいろな質問があった。街中の水と緑を先進的に「環境デザイン」すれば、多くの国内外の人々を感動させることができると実感した。

飛龍高等学校三島スクールの「環境出前講座」を開催







８月６日、源兵衛川第７ゾーンで、「環境出前講座」を開講。生徒は渡辺豊博ＧW三島専務理事から、源兵衛川の歴史や水辺再生の手法、ＧW三島の役割などについて講義を受けた。

その後、タモアミとミニ水槽を持って魚探し。40 分近くで大きな水槽一杯の魚やエビ類が捕れ、各生き物について生物学的な解説を聞いた。また、三島独特の水文化ともいえる「チャンかけ拾い」も体験した。

野外教室は、知識習得だけでなく、人の心と脳に刺激を与える「未知なる教室」だと思う。子供たちに、これらの貴重な体験の機会を広げたい。ＧW三島事務局にお問わせを！

「境川・清住緑地」のドローン撮影

６月 23 日、加和太建設(株)の協力のもとドローン撮影。2002 年 3 月に上流部の「遊水地・ビオトープ公園」、2020 年８月に下流部の「湧水公園・境川」が整備された。



ＧW三島で移植したミシマバイカモは順調に生育し、可憐な花をつけている。さらに移植し、「三島梅花藻の里」と同等の「お花畑・水のオアシス」を創造していく予定。

菰池と白滝公園の湧水池の掃除

６月９日、50 人以上の若者が、ヌクで汚れた池底を掃除。水温 18℃の湧水の中での作業は、多くの参加者にとっては初めての体験だったが、楽しく懸命に活動し１時間半で池底はきれいになった。



今後も多様な現場をフィールド体験型教育の場として提供していく。

「心を元気にするショートツアー」（７回実施）の報告等で能登を訪問

６月 25 日、渡辺豊博専務理事、室伏強理事、河合孝彦評議員が、往復 1,400km を運転し、報告と今後の相談で能登を訪問。能登の方々からは感謝の言葉。



また、今後のまちづくりの指導的役割や三島での現地視察、防災の経験知も含めて、新たな能登と伊豆の「半島交流」を検討・実現していくことが決まった。

台湾水環境整備・地方創生視察研修訪日団と情報交換会

８月 22 日、三島市民文化会館で、台湾の水環境整備・地方創生の訪日団と情報交換会を開催。水と緑を活かした三島のまちづくりや環境デザイン、親水性を前提とした水辺空間の仕掛け、生き物と人が共生できる環境に配慮した設計手法等について解説。次に、台湾における川づくりの現状等の報告があった。



今後、台湾の現場で難題解決の糸口の発見や具体的なデザインの立案を実施し、台湾各所に台湾版・源兵衛川を創り上げていきたい。

ふるさと三島人物伝　50



グラウンドワーク三島と私

グラウンドワーク三島理事

室伏（むろふし）　強（つよし）さん

（三島市大宮町在住）　【寄稿】

1964年８月生まれで、幼少のころから三嶋大社と水泉園（白滝公園）が遊び場でした。水泉園には湧水を活用したプールもあり、夏場でも冷たいプールに入り湧水を飲んでいたのを思い出します。しかし、横を流れる桜川や源兵衛川は、高度経済成長の時代に生活排水が流されてドブ川となり、仕方なく友達とザリガニを取っていました。



▲能登半島地震の被災家族が
源兵衛川で生き物さがしを体験

私がグラウンドワーク三島を知ったのは、今から25年ほど前になると思います。縁あって私は沼津青年会議所（ＪＣ）に所属していました。政府により合併条例が可決され近隣市町（沼津と三島）での合併についてのＪＣ主催フォーラムが開催されました。当時静岡県庁職員でグラウンドワーク三島の専務理事の渡辺豊博氏に来ていただき、パネルディスカッションを行った際、最後のコメントに渡辺豊博氏から「市町の合併を言う前に、お前ら青年会議所（ＪＣ）が先に合併するのが順序だろう」と言われたのを鮮明に覚えております。その後、三島商工会議所青年部や街づくり団体に所属して、多くの事業に関わらせていただきました。幼いころドブ川でザリガニを取って遊んでいた源兵衛川や桜川が清流として蘇り、遊歩道も整備されＪＲのウォークブラリーの開催コースになるまでになり、「楽寿の森芸術祭」では水辺での音楽を開催できたのも、グラウンドワーク三島をはじめ、川の再生に力を注いだ皆様のおかげだと感謝しています。

グラウンドワーク三島と多くの時間を共有したのは、東日本大震災での支援事業です。「いわき市・南相馬市・石巻市」の被災者たちに三島市へ何十回とお越しいただき、「源兵衛川や富士山宝永山」で被災者の心を癒していただきました。そして、「ドブ川から清流に変わった」源兵衛川を五感で感じ復興へのエネルギーにしていただけたものと感じておりました。



▲2025年度・グッドデザイン金賞及びベスト100」受賞等を、
鈴木康友静岡県知事へ報告に県庁を訪問（左端が室伏強さん）

その後も、熊本地震や能登半島地震と募金を集め補助金申請をし、富士山を仰ぎ見る「水の都」へと再生した三島は、実に多くの人の心を癒し勇気を与える「せせらぎ湧水」都市でもあると思います。

グラウンドワーク三島は再生した源兵衛川をはじめとする清流と、雷井戸や鏡池などの湧水地の維持管理もしています。そして境川・清住緑地や三島梅花藻の里等、民間企業が開発する際にも合意形成をもって進め、御園地区にある松毛川も、ドブ川のころから「三島のサンクチュアリー」と発信し、地域の人や学生の協力を得てゴミや雑草・雑木・放置竹林の除去を継続的に進めています。その後も、静岡県の予算で整備が進められ、今では富士山を望む田園風景をイメージできるまでになってきました。今後も御殿川の整備事業も決まり、三島市の掲げる「水と緑と人が輝く夢ある街みしま」になっていくものと思いますが課題もあります。景観もバランスが大事ですし、三島のブランド資源の湧水を守っていくためには、条例の整備や情報共有、そして産官民の役割分担による協働体制が不可欠ではないでしょうか。

新幹線駅のある富士箱根伊豆のゲートウェイ都市の「せせらぎ湧水」を多くの市民と守っていけたら、きっと世界に誇れる三島市になると確信しております。

禁酒・矯風運動を推進

社会事業家　間宮 はま

天保 10（1839）年、静岡県賀茂郡八幡野村（現伊東市八幡野）で生まれた。父は肥田土雄、母はとよ。幼い頃、伯父肥田春安の養女となる。開国期の初代造船技師として有名な肥田浜五郎（春安の五男）は、義兄にあたる。

はまは、19 歳で熱海村の間宮利三郎と結婚した。利三郎は、三島宿の旧家の出身だったが、父母、兄の死去により家は没落していた。「自分の手で間宮家を復興させる」というのが利三郎の悲願であった。慶応 2（1866）年、はまは、利三郎と共に横浜に出て貿易雑貨商を開業した。しかし、利三郎は、明治元（1868）年に急死。はま 31 歳の時であった。親戚は、はまの前途を心配し再婚を勧めたが、はまは、亡夫の遺志を継ぎたいからと断り、独力で商売を続けた。

明治 3（1870）年、はまは居を三島に移し、中島大通りに呉服店を開き、亡夫の念願だった間宮家の再興を成就した。しかし、嗣子がなかったので明治 17（1885）年、東京帝大の医学生、牧野珪雄を養子に迎え、家督を継がせ引退。明治 19（1887）年、商業を廃して閑居。

珪雄は、飲酒を好む傾向があった。義兄浜五郎の忠告を受け、はまは、珪雄を悪癖から救うため自ら手本を示す決意をし、商売関係の交際上嗜んでいた酒類を一切断った。そし明治 23（1891）年、伊豆禁酒会を創立し、禁酒運動を始めた。

これを機に、彼女は様々な社会教育に献身するようになった。当時三島には、女子教育の先駆けとなる私立バラ女学校があったが、寄宿舎に制限があり、女生徒を下宿させる良家もなかった。はまは、率先して多数の生徒を自宅で預かり、懇切に面倒をみた。また、当地には火葬場の設備がなかったのを憂い、有志の賛同を募り創設。明治 23（1891）年、竣工とともに三島町に寄付した。

悪い風俗を改善させるための矯風運動にも、熱心に取り組んだ。**※１島田三郎、※２ 山室軍平**らの名士を自費で招き講演会を催し、自らも、学校やその他の団体の招きに応じ体験や所信を述べた。矯風事業のための寄付もした。明治 27（1895）年、日清戦争が始まると、所持する絹布を全部売り払って赤十字社に寄付し、以後、絹物は身に着けず木綿の衣服で通した。

老齢になっても、早寝早起きを励行、飽食を避け、勤勉努力、常に「自分のことは自分でせよ」と言い、自らも実行していた。婦人社会事業家・間宮はまの名は広く知れ渡り、明治 42（1910）年、静岡県知事より褒章を与えられた。

大正 9（1920）年、長い間のキリスト教への信仰を告白し洗礼を受けて 83 歳で死去。

養子珪雄は、三島町小中島で医院を開業。はまの死後、キリスト教に入信し、三島教会の長老となり、伊豆禁酒会も主宰した。

矯風運動

日本キリスト教婦人矯風会は、明治 19（1886）年設立。アメリカの禁酒運動婦人団体「女性キリスト教禁酒連合」の日本支部として組織され、禁酒禁煙運動、公娼制度の廃止運動、婦人参政権獲得運動に力を置いて活動した。女性解放につながる強力な圧力団体として、救世軍、廓清会などとともに女性の支持を集めていった。明治 26（1893）年、全国組織を確立し、世界平和も目標に、矯風運動は全国に広まった。

現在は、慰安婦問題などの政治問題やジェンダーフリー、ポルノグラフィティ規制運動に取り組み、ドメスティックバイオレンスシェルターも運営している。



※１　島田 三郎（1852～1923）

明治、大正期の新聞人（横浜日日新聞社）、政治家（衆議院議員）

日本最初の公害訴訟で活躍、廃娼運動や普通選挙の実現に力を尽くした。

※2　山室 軍平（1872～1940）

宗教家、説教者、日本初の救世軍士官

社会福祉事業、教育事業、医療事業を推進。募金活動（社会鍋）で有名。

参考資料；『群像いず』　永岡 治 著　静岡新聞社
『三島市誌　中巻　抜刷　人物』
ウィキペディア　フリー百科事典

Smile スマイル

源兵衛川の記憶からこれからの三島へ

【寄稿】グラウンドワーク三島評議員　中江（なかえ）章喜（あきよし）さん



私は小学生まで三島で育ちました。その後、中学・高校は寮生活、社会人になってからも東京、名古屋で暮らし、しばらく三島を離れていました。27歳で地元企業に戻り、そこで出会ったのが「三島ゆうすい会」の活動でした。私にとって源兵衛川は、小学生の頃の記憶が残る、とても身近な場所です。その川が、市民×行政×企業の力によって大きく変わろうとしていた時代でした。

当時、静岡県職員でもあった「ジャンボさん」が、次々と新しい活動に取り組む姿を見て、「一体、何足のわらじを履いているのだろう」と、その行動力に驚いたことを覚えています。勤務先から英国グラウンドワークの視察に参加した者もおり、今振り返ると「私も行きたかったなあ」と少し羨ましく思います。

その後、グラウンドワーク三島が誕生し、活動が広がっていく様子を身近に感じながらも、私はなかなか直接参加する機会がありませんでした。それが今年、ジャンボさんに声をかけていただき、評議員として関わらせていただくことになりました。不思議なご縁を感じています。

私は長年、建設コンサルタントの仕事に携わり、退職後は特に「広域まちづくり」に関心を持っています。川は行政区域で区切られるものではありません。富士山からの水がまちを潤し、川となって地域をつなぎ、やがて海へと続いていきます。そこには自然だけでなく、暮らし、歴史、文化、人のつながりがあります。

三島は、富士・箱根・伊豆をつなぐ大切な拠点でもあります。これまでグラウンドワーク三島の皆さんが守り、育ててきた水辺や地域の魅力を、次の世代へどうつないでいくのか。私自身も皆さんと一緒に学びながら、三島から少し視野を広げ、この地域の大切な資源をさらに活かしていくお手伝いができればと思っています。

通訳から広がった、三島とのご縁

【寄稿】通訳（大阪出身）　髙（たか）　雅（みやび）　さん

趣味は旅行とスキューバダイビング。グラウンドワーク三島とのご縁は、台湾の大学院に留学していた2023年、渡辺豊博先生の台湾訪問で通訳を務めたことから始まりました。初めての現場は台中の川辺。市民やＮＰＯの皆さんが集まり、ピクニック形式で川について語り合い、先生が専門家としてお話をされていました。意見交換といえば、会議室で少しかしこまって行うものだと思っていた私は、「こんなやり方もあるんだ！」とびっくり。河川やまちづくりに関わった経験のない私には、何もかもが新鮮でした。その後も、先生が台湾を訪れるたびに、シンポジウムや現地視察、論文指導などで通訳を担当しました。オンラインでの交流も多く、会議や学会だけでなく、ｉＰａｄをつないでラジオ番組の通訳をしたこともあります。関わり方の幅広さに驚きながら、いつの間にか私自身も、活動にすっかり引き込まれていました。



三島には二度伺い、活動のお手伝いもさせていただきました。まず驚いたのは、活動の種類の多さです。源兵衛川を巡るだけでもいくつものルートがあり、ご案内いただくたびに発見と学びがありました。特に心に残っているのは、皆さんと川に入り、陶磁器のかけらを拾いながら草を取ったこと。真夏なのに、水の冷たさには思わず声が出るほどでした！川沿いを歩くと、子どもたちが楽しそうに水遊びをする姿に出会います。「昔の源兵衛川の姿を取り戻したい」という皆さんの思いが、こうして日常の風景になっているのだと感じました。豊かな水と、それを大切にする人たちが身近にいる。三島に暮らす皆さんが、うらやましくなりました。



今では私自身が学び、元気をいただいています。これからも、世代や国を越えて、さまざまな人が活動に出会える場であってほしいと思います。私も日本と台湾をつなぐお手伝いを続け、同世代の仲間にも、三島で感じた驚きや楽しさを伝えていきたいです。

パッションNo.56　「GW三島パソコン講座生」今も学びの成果を生かし情報交換





『三島アメニティ大百科』の編集がきっかけで、パソコンを使う人が増えた。ＧＷ三島のワンコインパソコン講座は、丁寧で優しい西川勝美先生のご指導で人気があり、先生の急逝後も、時折会っては、情報交換等を行っている。

今年も、5月13日に春のつどい、9月9日に秋のつどいを開催。先生を偲ぶと同時に、会報や通信の話をしたり、講座で作成した多くの作品を懐かしんだり、フェイスブックやユーチューブなど、その後の取り組みも話題になった。人と人を繋ぐパソコンやスマホの長所と可能性、近未来の方向や課題も、皆で注視していきたい。

「GW三島・アクショントーク」にゲスト

6月21日と28日、ボイスキュー「ＧＷ三島・アクショントーク」に、三島のまちづくりをリードする室伏強ＧＷ三島理事がゲスト出演。21日は「三島の魅力再発見とまちづくり」、28日は「三島市の自然環境と観光資源の現状と未来」。「地域ＤＮＡ、朝散歩」等、室伏節が炸裂した。

7月26日のゲスト出演は、門倉京子ＧＷ三島評議員。移住者から見た今の三島の魅力と課題など、話が盛りだくさんだった。

源兵衛川の護岸崩壊の現状

源兵衛川では各所で護岸や橋の欄干、歩道などの崩壊が進んでいる。7月22日、源兵衛川上流部にある歩道の整備工事に立会い確認した。川側に崩れた歩道の土を補い、沈下した溶岩ブロックを再設置し、砂利と砂を撒き調整した。あわせて、三石神社付近も整備した。継続的な維持管理が必要だ。

8月18日には、三島市議会議員も確認した。

ＧＷ三島の活動記録 2026 年 6 月 1 日～2026 年 9 月 30 日

月	日	曜	事業名	内容	場所	人数
6	6	土	三島米・ゆめみしまの田植え体験	田植え体験	梅名地区水田	20
6	9	火	菰池、白滝公園の環境整備ﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ	湧水地・水源地の掃除作業	菰池、白滝公園	50
6	13	土	三島梅花藻の里ワンデイチャレンジ	竹垣の整備	三島梅花藻の里	8
6	21	日	令和８年度通常総会	通常総会	ＴＭＯホール	30
6	21	日	令和８年度通常総会	講演会	ＴＭＯホール	50
6	21	日	令和８年度通常総会	交流会	ＴＭＯホール	20
6	25	木	能登半島地震支援活動	被災地への報告	能登町、珠洲市	3
6	30	火	「ゆめみしま」田んぼの畦づくり	田んぼの畦づくり	平田地区ほ場	5
7	11	土	松毛川千年の森づくり	耕作放棄地の草刈り	松毛川	10
7	15	水	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	池の清掃、ミシマバイカモの移植	境川・清住緑地	5
7	18	土	松毛川千年の森づくり	耕作放棄地の草刈り作業	松毛川	10
7	25	土	松毛川千年の森づくり	耕作放棄地の草刈り作業	松毛川	10
8	1	土	松毛川千年の森づくり	耕作放棄地の草刈り作業	松毛川	5
8	8	土	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	草刈り	源兵衛川	20
8	9	日	アスル de サステナ 全力夏祭り	源兵衛川についてのブース開設	キラメッセぬまづ	4
8	9	日	松毛川千年の森づくり	植林、野鳥観察会	松毛川	15
8	9	日	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	草刈り	源兵衛川	15
8	21	金	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	水の苑緑地整備	源兵衛川	100
8	23	日	街中だがしや楽校	源兵衛川についてのブース開設	三嶋大社	6
8	26	水	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	草刈り	源兵衛川	30
8	29	土	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	水の苑緑地整備	源兵衛川	20
9	3	木	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	草刈り	源兵衛川	35
9	8	火	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	草刈り	源兵衛川	6
9	18	金	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	草刈り、池の掃除	境川・清住緑地	15
9	24	木	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	草刈りと花植え	源兵衛川	5
9	24	木	「相葉ヒロミのお困りですカー？」鑑賞会	テレビ鑑賞会	広小路町	13

〈源兵衛川環境出前講座〉8/6 飛龍高校三島スクール 45 名
〈定例作業〉★三島梅花藻の里 18 回　★源兵衛川 4 回
★鏡池ミニ公園 4 回　★桜川 4 回　★境川・清住緑地愛護会 4 回
★雷井戸 4 回　★沢地グローバルガーデン 4 回
〈定例会議〉★編集会議 8 回
〈募金活動〉★松毛川の森を守る募金　★能登半島地震支援募金
★能登半島豪雨災害支援募金　随時

視察来訪者記録 R8. 6. 1～R8. 9. 30

月	日	視察団体	人数	地域
6	10	台湾千里歩道協会	5	台湾
6	26	～7/15 台湾社区大学ｲﾝﾀｰﾝ	1	台湾
7	24	プラチナ構想ｽｸｰﾙ	17	東京都
7	26	大泉田園景観保存会	35	長野県
8	8	～8/9 青山学院大学	11	東京都
8	21	～8/22 台湾社区大学･淡江大学等	15	台湾
8	26	台湾暨南国際大学	27	台湾
8	27	愛知県職員勉強会	7	愛知県
9	2	都留文科大学	30	山梨県
9	4	世界かんがい施設遺産活性化協議会	30	静岡県
9	7	飯田市･下久堅地区まちづくり委員会	17	長野県
9	11	長浜米原観光協会	7	岐阜県
9	28	飯田市龍江地域づくり委員会	20	長野県

←来訪前に「相葉ヒロミのお困りですカー？」の番組を視聴し、そこで記念写真を撮りたいと要望。

長野県飯田市龍江地域づくり委員会をご案内



9 月 28 日長野県飯田市龍江地域づくり委員会の皆様が視察来訪。現場案内は、小松幸子理事長、中島一彦事務局長、美和将弘事業課長。
「街は市民のもの」の理念を持ち、懸命に街づくりに努力しても、高齢化の拡大や若者の流出で、街の基盤・足元の脆弱化は加速している。雨が再び降り始め、渡辺豊博専務理事はバス内で説明。「年寄りが年寄りに寄り添い、地域を支える主役として知恵と経験、ネットワークを駆使し、街を守り伝えていくしかない」と強調し、貴重なメッセージも伝えた。

『AI 富士山学』をリリース

6 月 22 日、富士山が「世界文化遺産」に登録されて 13 年目。多くの課題を抱えた富士山は諸般の保全策が取られているか。富士山の価値と魅力、専門的知識を集大成した『ＡＩ富士山学』(渡辺豊博ＧＷ三島専務理事著)。国内外の富士山ファンのための対話型『富士山ガイドブック』である。

「台湾千里歩道協会」のメンバーをご案内



6 月 10 と 11 日、周聖心執行長らが来訪し、源兵衛川、三島梅花藻の里、松毛川、境川・清住緑地を視察。今後「水の都・三島」の「水と山の道」をルート化し、富士山を見ながら、観光客に歩いてもらうための歩道整備を図るなど、台湾千里歩道協会とＧＷ三島との連携協定についても語りあった。11 日は、室伏強ＧＷ三島理事と國原優子ＧＷ三島評議員の案内で箱根旧街道を歩き、水と山のルート化を本格化することになった。

「ゆめみしま」田植え体験

6 月 6 日、三島市中郷（梅名地区）の田んぼで、白井幸太郎中郷用水土地改良区元理事長から、苗の植え方や水の大切さ、歴史等の説明や指導を受け、作業を行った。



中腰の姿勢、ぬかるみに足を取られる過酷な作業だが、日本大学国際関係学部国際協力部の学生や沼津市からの親子等で苗を 50 列、手植えした。

源兵衛川と「ほたるの里」などの現地調査

6 月 8 日、源兵衛川最上流部の歩道の沈下・埋没部分を、三島市土木課立会いの下、補修方法の打ち合わせをした。東レからの補給水の減少から、増量の必要性を確認。
他にも、ヘドロや落ち葉の堆積、川横断のコンクリート基礎の浸食、水辺の歩道の崩壊等、環境悪化の拡大を確認。課題を抱えた現場の再生の具体策実行に着手する。



三島梅花藻の里　竹垣の整備作業

6 月 13 日、2 年前に学生たちと取り付けた竹垣が朽ちてしまったため、新しい竹に取り替えた。竹は、冬に松毛川の放置竹林から切り出し、乾燥させたもの。10 時からボランティアの協力を得て、駐車場側の竹垣の整備を行った。作業は中腰が続く重労働であったが、日本庭園風の景観が取り戻され、参加者は大きな達成感を共有した。次回は湧水地側の整備を予定している。



境川・清住緑地の清掃とミシマバイカモの移植

7 月 16 日、外気温 34℃の中、作業が行われた。湧水池・小川に入って汚れやヌクを洗い流し、枯れ枝を取り除き、ミシマバイカモを移植。水辺景観と環境を整備した。ミシマバイカモは 1 カ月ほどで定着し、白い花が水面を彩る見込み。生育環境の保全を継続する。



「三島梅花藻の里」の定例整備作業（毎週木曜日 10 時～）



定例整備として、ヌクの洗い流しや湧水地周辺の草刈り、樹木の剪定などの作業が続けられている。特に夏期はヌクが発生しやすく、維持管理の重要性が高まる。

7 月には、こころ未来高等学校の学生が初参加。ミシマバイカモの生態や清掃方法などを学び、外気温 34℃と水温 18℃の落差に声を上げていた。9 月には、アーティスト・佐野美奈末さん、京都芸術大学の学生 2 名、芸術祭三島満願祭スタッフが参加。樹木の剪定などを行い、緑陰空間を整えた。清流のシンボルを守る活動はボランティアの協力により 30 年以上続けられている。

雷井戸の木製デッキの補修工事を実施

7 月 12 日、三島市内にある巨大な井戸「雷井戸」の木製デッキの補修工事を実施。ここは干天（かんてん）が続いても湧水の噴出が変わらず、ミシマバイカモの白い花が咲き乱れ「水の都・三島」の人気の観光スポットになっている。

今後も安全性に配慮した的確な維持管理が必要。そのための資金的なサポートを協力してほしい。



御園地区の耕作放棄地の草刈り

7月 11 日　松毛川沿いの防風林や植林地の下草刈りを実施。ＧＷ三島は、土地は環境資源の認識のもと、多様な市民の協力を得て荒れ地を元の優良農地に復田している。



7月 18 日　猛暑の中、ボランティアやサポーターの力を借りて、農村地帯を生物多様性にあふれた環境・田んぼに戻す活動を地道に続けている。

7月 25 日　気温 36℃の過酷な暑さのなか、作業に汗を流した。今までに約 1.5ha の耕作放棄地の草刈りを行い、本年は 2ha を復田する。トラクターで 2 回耕し、粉砕した草類を土に漉き込み、有機肥料を投入。再度トラクターで耕し、菜の花の種をまき、菜種油を収穫し、販売する予定。



8月1日　耕作放棄地の草刈り、防風林の下草刈り、農道法面を整備。三島桜並木の下草刈りも行った。

台湾地方創生ツアーの皆様 GW三島の視察研修で来訪

8 月 26 日、台湾地方創生ツアーの皆様が視察研修で来訪。

まず午前中は、講義「汚れた水の都・三島の環境資源を地域振興資源に再生」と質疑応答、午後は、水辺エコツアー、その後、源兵衛川三石神社周辺の草刈り作業とちゃんかけ拾いを体験。

参加者に全力で取り組んでいただき、2 時間ほどで見違えるように綺麗になった。多くは暨南国際大学の教授陣だったが、大学生の 2 倍のスピードで作業が進んだ。やはり先生方の集中力はすごい。



「三島アメニティ大百科・別冊付録 No.21」「長伏公園」（三島市長伏 274-3）

長伏公園は狩野川沿いにあり、春には桜のお花見ができ、野球の出来るグラウンドがある都市公園。令和 6（2023）年 10 月、老朽化によりプールは撤去され、跡地は「若い世代から選ばれる楽しい街のシンボルとなる都市公園」をコンセプトに再整備が進められ、令和 8（2026）年 4 月 25 日に供用が開始された。

子供たちの健やかな成長を願い、武末康晴氏（三島市加茂在住）から大型遊具設置資金として 1 億円が寄付され、リニューアル前から話題を呼んでいた。大型遊具は、高さ約 10mのタワーと長さ 40mのローラースライダーがある「絵本（えほん）のまちの湧くわくタワー（対象年齢 6 歳～12 歳）」、巨大なとびだす絵本となる「とびだす絵本広場（対象年齢 3 歳～6 歳）」、爽快でスピード感のあるターザンロープの 3 つ。芝生広場も整備され、幅広い年代が楽しめる公園となっている。利用時間は 8：30～17：00。公園全体のさらなる再整備も予定されている。

駐車台数：・北側駐車場　約 240 台　・園内駐車場　約 80 台
・臨時駐車場　約 100 台（土日祝のみ開放）





三島市内の写真集



撮 影 者：やまぼうし
撮影場所：中央町郵便局付近
撮影日時：2026/8/16　16:16
ひとこと：三嶋大祭り２日目恒例の頼朝公旗挙げ行列。今年の頼朝公役は俳優の寺島進さん。出発前「楽しみたい」と挨拶されていた。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添えて
Ｅメールに添付し、ＧＷ三島事務局まで。Ｅメール：info@gwmishima.jp

ご寄付をありがとうございます。募金の趣旨を生かして大切に使わせていただきます。

＊東日本大震災支援募金
＊ネパール地震支援募金
＊熊本地震支援募金
＊大阪北部地震支援募金
＊松毛川の森を守る募金
＊西日本豪雨災害支援募金
＊能登半島地震支援募金
＊能登半島豪雨災害支援募金

青山学院大学「SHANTI SHANTI」のボランティア体験

８月８日、青山学院大学「SHANTI SHANTI」のメンバーが、ＧＷ三島へボランティア体験のために来訪。他に高校生らも参加。源兵衛川の水辺エコツアー体験後、源兵衛川のカワセミ橋周辺の草刈り。35℃の中で、時々涼しい川風が吹くものの草類は濡れて運び出すのに一苦労。しかし、毎年ゲンジボタルを楽しめる場所で、「川の防人」の役割を担っている作業の意味を学生も理解し頑張ってくれた。約４時間で見事に綺麗になり、生き物たちの生息環境と水辺の景観が整った。

８月９日は、体験２日目。「松毛川千年の森づくり」の現場で豊かな河畔林を創り上げる成果を説明後、植林。スコップで地面に穴を掘り、放置竹林伐採後に発酵させた肥料を苗木の下と周辺に投入、土を戻し、大量の水を注水、また土を戻し、足で苗木の周辺を強く踏み固め、支柱を打ち込み、支柱に苗木を棕櫚で縛り、固定し、繰り返す。次は、滝道雄先生の「野鳥観察会」。



午後は源兵衛川に戻り、ミシマバイカモ群生地の見学用歩道の補修作業。約２時間半で、見事に歩道が整備された。現場は実社会の縮図。今回、達成感と足跡の残る仕事の意義を実感できたと思う。「現場には社会の真理と、人間的成長の可能性あり」。

「ゆめみしま」のため、更に復田の畦づくり



ＧＷ三島は、源兵衛川の清流で育つ「三島米」づくりに取り組み、三島で初めての新銘柄米「ゆめみしま」を令和３（2021）年に誕生させた。

市内の遊休農地の復田に取り組んでいるＧＷ三島では、６月30日、三島市平田地区の遊休農地を復田するための畦づくり作業を行った。７月４日、別の遊休農地をトラクターで２回耕耘。肥料をまき、畦をつくり、水を入れ、２回代掻きをし、田植え機で「ゆめみしま」を植えた。これで育苗した苗はすべて使い切った。

グラウンドワーク三島編集室（五十音順）
浅井 一哉　河田 惠美子　岸野 和子　城所 徂帝
小松 幸子　佐々木 覚　相馬 幸永子　前田 充子
山﨑 多紀子　**ＧＷ三島事務局担当**：美和 将弘

台湾の社区大学全国促進会から来た柯（か）さんへの「ご苦労さま会」

７月11日、ＧＷ三島の「中間支援組織」としての役割と手法を修士論文にまとめるため、台湾社区大学全国促進会から来日した柯（か）さん（写真の左から２人目）への「ご苦労さま会」を開催。彼女はＧＷ三島に４回来ており、三島の大ファン。今回は、ＧＷ三島の役員やサポーターなど20名の聞き取り調査を実施し、多面的に分析してＧＷ三島の機能の健全性等を評価する。渡辺豊博ＧＷ三島専務理事は、修士論文の指導教官を依頼されている。



長野県南箕輪村「大泉田園景観保存会」視察に

７月26日、長野県上伊那郡南箕輪村「大泉田園景観保存会」の方々を渡辺豊博ＧＷ三島専務理事と山口東司インストラクターが案内説明。



保存会は、三島も取り組んでいる多面的機能支払交付金を受け活動している連合組織。地域に憩いのエリアを創設する計画づくりの参考に来訪。

外があまりにも暑いので、質疑応答はバス内で実施。「組織の運営管理の方法は、現場主義のポリシーとは、30余年も活動が発展的に継続している要因・原動力とは」など、熱心で真剣な議論が続いた。

「街中だがしや楽校」に出展

８月23日、「街中だがしや楽校2026静岡 in 三嶋大社・ゑびす参道」が開催され、ＧＷ三島も「クイズ水の都・三島の生き物たち・源兵衛川探検クイズコーナー」を設置。200人以上の子供たちが、源兵衛川クイズや生き物観察に参加。源兵衛川の漫画やパンフレットも配布した。源兵衛川は、魚やトンボ、鳥たちのすみかであり、三島の大切な環境資源。その価値と魅力をサポーターと守り伝えていきたい。

